

第2次伊勢原市食育推進計画【事業評価・事業計画シート】
平成28年度事業評価・平成29年度事業計画

1	担当課等実施主体	子育て支援課		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
マタニティクッキング (母親・父親学級2日目)		妊娠期から出産後の家族の食生活に必要な栄養について学ぶ教室。食事栄養調査を行い自身の食事を振り返る。実演・試食を行い食の体験を通し、望ましい食事の摂り方を理解する。		隔月開催 (年6回)	母親父親学級の実参加者の8割の参加
H28	取組結果・実績	<ul style="list-style-type: none"> ・AからFコースまで年間5回実施。Cコースは台風の為中止した。年間の教室実参加者は82名。「お母さんと赤ちゃんの栄養の話し」の参加者は78名であり、実参加者の95%に当たる参加があった。 ・夫の参加についても全コースを通じ延27名と前年を上回った。 			
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育スローガン」の紹介と、朝食喫食についての講義を継続して行った。 ・若い女性の「痩せ」対策としてBMI(体格指数)を計算し、自身の体格区分を知り、妊娠期の望ましい体重増加を知る内容を加えた。 ・3日間を通して参加者同士の交流が出来るように工夫している。一緒に食事を摂る事でより交流を深められた。 			
	事業評価	A	ABCの理由	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度目標である実参加者の8割を超える参加があった。 ・教室を通し「食育スローガン」の掲示を行い、朝食喫食、共食の啓発ができた。 ・自身の体格をBMIで確認してもらい、妊娠期の望ましい体重増加量を伝える事ができた。 	
H29事業計画・方針		<ul style="list-style-type: none"> ・母親父親学級2日目の「お母さんと赤ちゃんの栄養の話し」は前年同様に実施する。 			

2	担当課等実施主体	子育て支援課		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
「ごっくん」離乳食教室		離乳食開始から幼児食まで、基本となる乳幼児期の食生活について学ぶ教室。栄養士講話と離乳食の実演、試食の提供を行う。 隔月で母親教室参加者とのふれあい体験を実施。		月1回	月1回実施
H28	取組結果・実績	<ul style="list-style-type: none"> ・年間12回実施。 ・年間参加人数246名。妊婦との交流参加人数111名。 ・「ごっくん」離乳食教室への夫参加人数は12名であった。 			
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育スローガン」の紹介と、朝食喫食、共食についての講義は継続して行った。 ・教室アンケートからの参加者の朝食欠食率はH27年度は15%と増加傾向にあったが、H28年度は11.5%と減少傾向がみられた。 			
	事業評価	A	ABCの理由	<ul style="list-style-type: none"> ・29年度目標である「月1回」を実施する事ができた。 ・年間を通し「食育スローガン」の掲示を行い周知することができた。 ・朝食喫食、共食を勧める事ができた。 	
H29事業計画・方針		<ul style="list-style-type: none"> ・「ごっくん」離乳食教室は前年同様に実施する。 ・親の食事からの取り分けを推進し、朝食喫食、共食を勧める。 			

3	担当課等実施主体	子育て支援課		食育目標 1 2 4
取組・事業名		事業内容とその目的	現状	29年度目標
乳幼児健診での食育および食事相談		各健診において食事相談と集団での食教育を行う。 健診会場においてポスターを掲示し食育の普及啓発を行う。	月10回	月10回実施
H28	取組結果・実績	<ul style="list-style-type: none"> 年間120回実施。1170件の食事相談を行った。 7ヶ月健康相談では参加者全体の42%が「食事相談」を受けられた。 		
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> 3歳児健診の朝食欠食と朝食共欠食の集計は継続して行った。結果は800名の健診参加者中、朝食欠食者は5名(0.6%)、朝食共欠食者は119名(15%)。朝食欠食率は前年の1.8%から0.6%と減少した。朝食共欠食者率は前年16%、今年度15%とほぼ同じであった。 「食育スローガン」を各健診において会場に掲示し周知した。 2歳児・3歳児健康診査の集団講義において、朝食喫食に関する内容を継続して伝えた。 		
	事業評価	A	ABCの理由	<ul style="list-style-type: none"> 29年度目標である「月10回」を実施する事ができた。 伊勢原市に住む3歳児の朝食欠食の減少がみられた。 年間を通し「食育スローガン」の掲示を行い周知することができた。 朝食喫食を勧める事ができた。
H29事業計画・方針		<ul style="list-style-type: none"> 前年同様に実施する。 継続して3歳児の朝食欠食と朝食共欠食を把握する。 		

4	担当課等実施主体	子育て支援課		食育目標 1 2 3 4
取組・事業名		事業内容とその目的	現状	29年度目標
すくすく健康相談での食育および食事相談		各公民館で乳幼児の食事相談を行う。 中央公民館にて栄養士講話・実演・試食を実施。	月3~4回	月3~4回実施
H28	取組結果・実績	<ul style="list-style-type: none"> 年間45回実施。 来所1795名、528名の食事相談を行った。全体の約30%が食事相談を受けている。 中央公民館の乳児の回では「すくすく離乳食」を開催し、親からの取り分けの実演と試食の提供を行っている。参加者266名の64%にあたる170名の参加があり、129名の個別相談を実施した。 乳・幼児の回では「離乳食・幼児食」の講話を行った。参加者549名の35.3%にあたる194名の参加があり、174件の個別相談を実施した。 		
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> 各公民館で行った「すくすく相談」において「食育スローガン」を掲示し周知する事ができた。 講話の内容に朝食喫食と朝食共食を推進する内容を加え、継続して伝えた。 		
	事業評価	A	ABCの理由	<ul style="list-style-type: none"> 29年度目標である「月3~4回」を実施する事ができた。 「食育スローガン」の掲示を行い、周知する事ができた。 講話の中で朝食喫食を勧める事ができた。 事業の実施回数が増えた。
H29事業計画・方針		<ul style="list-style-type: none"> 前年同様に実施する。 		

5	担当課等実施主体	子育て支援課		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
乳幼児の食生活について普及・啓発		①子育て支援センターや各公民館主催の乳幼児教室において食生活講座を実施。 ②健診会場や各公民館において食に関するポスターやレシピ等の掲示。伊勢原市ホームページに乳幼児の食に関する情報を掲載。 ③レシピの作成、配布。		随時	各事業において、「食育スローガン」の掲示を行い、朝食喫食、朝食共食を啓発する。
H28	取組結果・実績	<ul style="list-style-type: none"> 公民館乳児・幼児家庭学級での講義4回実施。(中央公民館2回実施) 支援センターでの「赤ちゃんひろば」での講義1回と、子育てサポーター養成講座で講義を1回実施。 			
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> 「食育スローガン」の掲示を行った。 講義の内容に朝食喫食、朝食共食の内容を追加し、継続して伝えた。 			
	事業評価	A	ABCの理由	<ul style="list-style-type: none"> 新しいレシピを作成し、ホームページにアップした。 「食育スローガン」の掲示をおこない、周知する事ができた。 講義の中で朝食喫食、朝食共食を勧める事ができた。 公民館事業数が増えた。 	
H29事業計画・方針		<ul style="list-style-type: none"> 前年同様に実施する。 各公民館事業の「幼児家庭学級」や「赤ちゃん広場」において朝食喫食、朝食共食を推進する。 			

6	担当課等実施主体	子ども育成課		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
保育所給食を活用した食育		食を営む力を育成し、望ましい食習慣を身につけ、食べることを楽しめるような給食を実施。また、バイキング給食の実施、地場産物の提供、紙芝居等の媒体を使った食育も実施。		各園にて実施	バイキング給食 年に2～3回実施、栄養士による食育指導を5歳児に月1回実施
H28	取組結果・実績	<p>離乳期は特に保育士と調理員が連絡を取りながら園児の状態に合わせた食事を提供。また給食時間において保育士による食育を実施。5歳児には月1回栄養士が紙芝居等の媒体を使用した食育を実施。</p> <p>バイキング給食を各園2～3回実施。</p> <p>地場産物の提供では伊勢原産の米、梨、柿、みかん、しいたけ、しめじを使用。</p>			
	報告事項	<p>平成25年に初めて給食で提供した大山きのこカレーを、今年も提供し、伊勢原産のしいたけ、しめじを使用できた。</p> <p>バイキング給食では楽しく、そしてバランスよく食べられるように配慮した。</p>			
	事業評価	A	ABCの理由	<p>離乳期の食事は保育士、調理員が連携し園児に合わせて提供ができた。5歳児へは月に1回、紙芝居等を使用し、食育を実施できた。</p> <p>バイキング給食は各園と内容を相談し実施した。大山キノコカレーの提供も4回目となり、定着した。</p>	
H29事業計画・方針		前年度どおり、バイキング給食を2～3階実施し、栄養士による食育指導を5歳児に月1回実施予定。			

7	担当課等実施主体	子ども育成課		食育目標	3 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
クッキング保育		調理する楽しさを育て、積極的に食事づくりにかかわれるようにする。		各園年 1～2回	各園年1～2回
H28	取組結果・実績	各園にてパフェパーティー、カレーパーティー等を年2回実施した。カレーパーティーは各園で栽培、収穫したじゃがいもを使用し、収穫の喜びもあった。5歳児を対象にとうもろこしの皮剥きを行い、おやつで提供した。			
	報告事項	カレーパーティーは外のクラスの子もたちも見学に来て、全員が興味を持てるようにしていた			
	事業評価	A	ABCの理由	各園で栽培収穫した食材を使用して子どもたちが調理を行うことで、食に対する興味、関心、意欲を伸ばすことができた。	
H29事業計画・方針		前年度と同様に年1～2回実施予定。			

8	担当課等実施主体	子ども育成課		食育目標	3 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
園内菜園		食材を育てることを通して食材への興味・関心を促し、自然の恵み、人への感謝の気持ち、命を大切にすることを育む。		各園にて 栽培	現状維持
H28	取組結果・実績	各園にて野菜を栽培。じゃが芋はカレーパーティーにて子どもたちが調理し、給食で食べた。また栽培した食材を家庭に持ち帰り、家庭で食べたり、給食でも提供した。			
	報告事項	中央保育園においてはJAいせはら食農教育プラン（プランター野菜づくり）を実施した。また農業まつりに子どもたちが描いた絵を出展した。			
	事業評価	A	ABCの理由	各園で栽培した野菜を子どもたちが調理し、カレーパーティーを実施した。野菜の成長、収穫を体験し、それを実際に食べることで命を大切にすることを育むことができた。	
H29事業計画・方針		各園で野菜を栽培、収穫を体験し、給食で提供する。平成29年度はJAいせはら大田地区GC組合の協力によりじゃがいも堀りを5歳児に実施予定。			

9	担当課等実施主体	子ども育成課		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
保護者への食育の普及・啓発		保護者への食育の普及・啓発を目的に子どもの食事の様子や食育の取り組みを伝える。 給食だより、給食試食会、食育・食事相談。		月1回配布	給食だより月1回配布
H28	取組結果・実績	給食だより月1回の配布、保育園の試食会での資料提供を実施した。			
	報告事項	試食会では給食のレシピを配布し、家庭での調理の参考になるようにした。			
	事業評価	A	ABCの理由	給食レシピを試食会で配布し、家庭でも簡単に調理ができるような工夫をした。給食だよりを月に1度配布。保護者へ食育の普及・啓発をする内容を記載した。	
H29事業計画・方針		平成29年4月からは、食育だよりに名称を変更し、月1回、保育園、小規模保育施設のほか、幼稚園、認定こども園にも配布する。			

10	担当課等実施主体	学校教育課 各小中学校		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
教育活動における食育		<ul style="list-style-type: none"> 食育指導計画により教科や教科外において食育の目標に沿った指導を行う。 給食の準備から片付けまでの一連の指導の中で、正しい手洗い、配膳方法、食器の並べ方、はしの使い方、食事のマナーなどを習得する。 教科等で取り上げられた食品や学習したことを学校給食を通して確認する。 学校給食を通して、食品の産地や栄養的な特徴等を学習する。 栄養教諭及び栄養職員、学級担任等の教諭が連携し、食育を行う。 		小中学校14校で実施	小中学校14校で継続して実施
H28	取組結果・実績	各小中学校について、食育を栄養教諭及び栄養職員、学級担任などが連携し、それぞれの学年学級にあった食育を行った。			
	報告事項	手洗いやよくかむこと、よい姿勢や和やかな雰囲気作りは、食事の基本である。食事のあいさつは、感謝の気持ちの表れであり、残さず食べ、協力して食事の準備や後方付けなどの正しい習慣への指導を行った。			
	事業評価	A	ABCの理由	食育指導計画により教科や教科外において食育の目標に沿った指導ができた。	
H29事業計画・方針		平成28年度に引続き実施。			

11	担当課等実施主体	学校教育課 各小中学校		食育目標 1 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
教育活動における食育		<ul style="list-style-type: none"> ・日本及び外国に伝わる行事食や郷土料理、地域の伝統や気候風土と深く結び付き、先人によって培われてきた多様な食文化があることを知り、伝統に対する理解を深め、食への関心を高める。 		全小中学校で実施	小中学校14校で継続して実施
H28	取組結果・実績	行事食や郷土料理を知り、食文化や伝統に対する理解を深め、食への関心を高めた。			
	報告事項	行事食や郷土料理を取り入れた給食献立の実施、ランチルーム・授業での話、給食だよりや資料配布等を行った。			
	事業評価	A	ABCの理由	行事食や郷土料理を知り、食文化や伝統に対する理解を深め、食への関心を高めることができた。	
H29事業計画・方針		平成28年度に引き続き実施。			

12	担当課等実施主体	学校教育課 各小学校		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
教育活動における食育		<ul style="list-style-type: none"> ・ランチルーム 学級単位で年に数回、「ランチルーム」という特別教室で給食を食べ、栄養教諭及び栄養職員による食育等を重点的に行う。 整った食事環境により、楽しく会食することや、食事のマナーを身に付ける。 		全小学校で実施	小学校10校で継続して実施
H28	取組結果・実績	各小学校で、ランチルームを実施し、栄養教諭や栄養職員などが、その学年や学級に応じた食育を実施している。			
	報告事項	はしの使い方、食器の並べ方、話題の選び方などマナーを考え、相手を思いやり、楽しい食事につながるよう指導した。また、学校給食にはいろいろな食品が使われていること、栄養のバランスをよくするために、好き嫌いをなく食べることが必要であることを指導した。			
	事業評価	A	ABCの理由	各小学校で、ランチルームを実施し、栄養教諭や栄養職員などが、その学年や学級に応じた食育を実施できた。	
H29事業計画・方針		平成28年度に引き続き実施。			

13	担当課等実施主体	学校教育課 各小学校		食育目標 1 2 3 4 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
教育活動における食育		<ul style="list-style-type: none"> 学校給食における地場産物の使用推進 「かながわ産品学校給食デー」や、「学校給食地場野菜使用推進事業」のほか、年間を通して給食食材に地場産物を積極的に使用することにより、地域の自然、食文化、産業等について理解を深める。 地場産物の生産者や生産過程等を理解することにより、食べ物やそれにかかわる人への感謝の気持ちを育てる。 地域の生産者等と連携した食育を行う。 		<p>「かながわ産品学校給食デー」は全小学校、「学校給食地場野菜使用推進事業」は全小学校で継続的に実施</p>
				小学校10校で継続して実施
H28	取組結果・実績	かながわ産品学校給食デーは、月1回、各小学校で実施した。「学校給食地場野菜使用推進事業」は、全10校で毎月1回、地場産物の野菜を給食で使用している。		
	報告事項	地場産物生産者と、年3回の会議を実施している。		
	事業評価	A	ABCの理由	地場産物を教材として使用する事により、給食残量が減るなど、食育に優れた効果が認められた。全小学校で実施することができた。
H29事業計画・方針		平成28年度に引続き実施。		

14	担当課等実施主体	学校教育課 各小中学校		食育目標 1 2 3 4 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
教育活動における食育		<ul style="list-style-type: none"> 家庭地域との連携 給食だより、学校だより、保健だより、給食試食会、給食衛生委員会等により、学校における食に関する指導の目標や方法、学校給食の意義、役割等について共通理解を図り、家庭や地域と学校が連携した食育に取り組む。 		全小中学校で実施
				小中学校14校で継続して実施
H28	取組結果・実績	給食だより、学校だより、保健だよりや、給食試食会、給食衛生委員会等を開催し、家庭や地域と学校が連携した食育に取り組んだ。		
	報告事項	家庭や地域と学校が連携することにより、各小中学校や児童生徒の実態にあわせた食育に取り組むことができた。		
	事業評価	A	ABCの理由	給食だより、学校だより、保健だよりや、給食試食会、給食衛生委員会等により、共通理解を図り、家庭や地域と学校が連携した食育に取り組むことができた。
H29事業計画・方針		平成28年度に引続き実施。		

15	担当課等実施主体	学校教育課 各中学校		食育目標 1 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
思春期栄養改善事業		青年・壮年期以降の生活習慣の出発点である中学生に対し、望ましい食習慣を身に付けるよう促すため、骨密度測定と栄養教育を行う。効果的な食育を行うため、食生活に関するアンケートを行い、中学生の現状を把握する。		全中学校で実施	市内4中学校で実施
H28	取組結果・実績	市内4中学校の各校で年1回ずつ、中学2年生803名に対し、骨密度測定及び栄養教育を実施した。			
	報告事項	食生活に関するアンケート調査は、栄養指導のための資料として学校に報告するほか、伊勢原市食育推進計画の基礎資料として計画に役立てている。			
	事業評価	A	ABCの理由	骨密度測定を取り入れた栄養指導を継続して実施することで、思春期の栄養指導の貴重な機会となっている。各中学校で実施することができた。	
H29事業計画・方針		平成28年度に引続き実施予定。			

16	担当課等実施主体	教育指導課		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
「総合的な学習時間」での取組		地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方について理解を深めたり、農業体験等を通して自分の食生活全般を振り返り、よりよい生活習慣や食習慣を考えたりする。		各学校の年間計画に基づき実施	小中学校14校が年間計画を作成する
H28	取組結果・実績	小学校第3学年から第6学年、及び中学校において、総合的な学習の時間の中に食に関する指導を位置づけ、指導を行った。			
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> 小学校においては、野菜や米等の栽培や収穫体験、調理実習などを通じて、食べ物への感謝の気持ちをはぐくむ指導等を行った。 中学校においては、家庭科や保健体育科の学習を発展させた指導を通じて、自分のより良い生活習慣について考える指導を行った。 			
	事業評価	A	ABCの理由	総合的な学習の時間の年間計画に位置づけられた様々な体験等を通じて、食習慣を含めた生活習慣について考えることができた。	
H29事業計画・方針		総合的な学習の時間において、充実した食育の実践が行われるような年間計画を作成するとともに、栄養教諭のネットワークを生かし、推進連絡会や研修会を通じて各校の取組について情報交換を行っていく。			

17	担当課等実施主体	教育指導課		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
各教科等での食に関する指導		各教科（社会、理科、生活、家庭、技術・家庭、体育、保健体育等）で、それぞれの学校や児童生徒の実態に合わせて創意工夫に努め、食に関する指導の学習を展開する。		各学校の年間計画に基づき実施	小中学校14校が年間計画を作成する
H28	取組結果・実績	小学校低学年では生活科、中学年では理科、高学年及び中学校においては、家庭科を中心に食に関する指導を位置づけ、食に関わる内容や食に結びつけられそうな単元を拾い出し、年間計画の中に位置づけて食育指導を行った。			
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> 生活科では、小学校全校でミニトマトなどの野菜の栽培を行った。 理科では、小中学校全校で植物の生長や人体の消化等について指導した。 家庭科では、小中学校全校で栄養について学習し、調理実習を行った。 小学校体育科及び中学校保健体育科では、小中学校全校で望ましい食習慣等について指導した。 			
	事業評価	A	ABCの理由	小中学校全校で教科の年間計画に食に関する指導を位置づけ、それに基づいた指導を行い、児童・生徒へ食に興味を持たせる活動を行うことができた。	
H29事業計画・方針		各教科の学習の目標に、食に関する指導の視点を付け加えることで、家庭科や給食指導以外の各教科の指導で食育ができることを研修会等を通じて周知していく。また、その視点を踏まえた横断的・系統的な年間計画の作成に努める。			

18	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 4	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
思春期食育事業		高校生への骨量測定と食教育の実施。		随時	参加者のうち学生割合を50%以上
H28	取組結果・実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内A高校に骨量測定、食事相談を実施。参加者256人。うちA高校学生は79人（＝31%）だが、他校の学生（中高校生等）と合わせると141人（＝55%）であった。 市内B高校に骨量測定、食教育を実施。骨量測定は134人（すべてB高校学生のため100%）に実施。食教育は3回実施し、計432人（すべてB高校学生のため100%）の参加者であった。 2校合わせると、思春期食育事業に参加した学生の割合は83.3%であった。 			
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> A高校では骨密度の結果説明と同時に食事相談を実施した。文化祭時に実施のため、他校の学生の参加も多かった。 B高校では3年生家庭科の授業や運動部生徒向け講座、1年生向け食育授業等で食教育を実施、運動部生徒向け講座では講座の合間に骨量測定を行った。 実施が2校に増えたため、昨年度に比べ、実施高校数、人数、学生の割合ともに増えた。 			
	事業評価	A	ABCの理由	B高校で授業等の一環として事業実施できたので、学生の割合を増やすことができ、目標を達成することができた。実施高校数も増やすことができたので、参加者数も大幅に増えた。	
H29事業計画・方針		市内A・B高校共に、前年度どおり実施予定。平成29年度目標の「参加者のうち学生割合を50%以上」の継続をめざして、各高校と調整し、生徒の参加を促していく。			

19	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 4
取組・事業名		事業内容とその目的	現状	29年度目標
39歳以下健診		39歳以下の方を対象とした健康診査時に食事相談を実施。	年2回	受診者100%へ食教育及び情報提供の実施。
H28	取組結果・実績	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回健診を実施し、健診会場で骨量測定会を実施し191人が参加。 ・受診者全員に関する骨量アップに関する資料を配布して、食に関する情報提供を行った。 		
	報告事項	参加者のうち67人に食事相談を実施した（35%）。		
	事業評価	A	ABCの理由	前年度（157名）に比べ、対象者数を増やすことができた。目標についても達成することができた。
H29事業計画・方針		前年度と同様に実施。適正体重維持について等対象者に合わせた資料等を用い、若いうちから健康的な食生活に対する意識付けをしていく。相談内容により、市の教室を紹介するなど連携していく。		

20	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 2 3 4 5
取組・事業名		事業内容とその目的	現状	29年度目標
ヘルスマイト養成講座		食を通じた健康づくりをするボランティアの養成講座。	年1コース（15日間）	毎年8割以上の入会者
H28	取組結果・実績	年1コース8日間実施。修了者9人のうち8人がヘルスマイトへ入会を希望した（約9割）。		
	報告事項	今年度は男性の参加者もあった。性別に関わらず食育活動を実施していく。		
	事業評価	A	ABCの理由	前年と比較し、入会者数は増加した。（前年度は5人）
H29事業計画・方針		講座の開始時期を早めるため、周知を早めにし実際の活動紹介など具体的な講座の内容も取り入れていく。また、各地域で行われているヘルスマイトの料理講習会などで、ヘルスマイト活動に興味のある方へ養成講座の案内通知希望をとるようにする。		

21	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 2 4
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
生活習慣病予防教室		生活習慣病やメタボリックシンドロームの予防が目的の教室。運動、栄養士講話や試食など。		年1回
H28	取組結果・実績	糖尿病、高血糖予防を目的とした「早めが肝心！血糖値セミナー」、脂質異常症予防を目的とした「目指せ！サラサラしなやか血管セミナー」を実施。それぞれ、年1回2日間コース。		
	報告事項	管理栄養士の担当する回では、講話と調理実習の両方を行い、実生活をイメージしやすいようお伝えした。		
	事業評価	A	ABCの理由	計画どおり実施した。目的別に2種類の教室を実施した。前年度（32名）と比較し、両セミナーの参加者（合計）は36名と増加し、また個別相談にも対応した。
H29事業計画・方針		対象疾病は前年度と同様のテーマで実施。管理栄養士担当の回は、男性も参加しやすいように調理実習ではなく、会食方式にし講義の時間を充実させる。		

22	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 2 3 4
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
OB会（生活習慣病予防教室）		生活習慣病予防の教室終了後に継続して生活習慣を見直すためのグループ活動。		随時
H28	取組結果・実績	調理実習の前に講話を担当し、レシピ作成時の支援を行った。 やまぶきの会（糖尿病予防教室OB会） 年2回20人		
	報告事項	さつき会（脂質異常症予防教室OB会）はH27年度末に会員数減少および高齢化を理由に解散したため、やまぶきの会への支援のみの年2回の実施となっている。		
	事業評価	B	ABCの理由	さつき会は会の意向で解散となり全体の支援回数が減少したが、やまぶきの会に関しては計画どおり支援を行った。
H29事業計画・方針		やまぶきの会については、前年度と同様に平塚保健福祉事務所秦野センター栄養士と連携し、継続して支援する。やまぶきの会も会員の高齢化がみられるため、市の生活習慣病予防教室を終了した方に会を紹介し新規会員を募っていく。		

23	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 4	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
ヘルスアップ相談（食事・運動・生活相談）		生活習慣病予防が気になる方（希望者および通知した方）への食事相談。		年15回	年15回、各回3名ずつ実施（年45名）
H28	取組結果・実績	年16回実施し、54人の参加があった。相談は保健師、管理栄養士、健康運動指導士で実施した。			
	報告事項	予定より2回少ない実施だった（希望者がいない回があったため）が、来所が難しい方など、栄養診断システムを用い文書指導をする等、工夫した。			
	事業評価	A	ABCの理由	目標回数を達成できた。	
H29事業計画・方針		生活習慣病予防教室等参加者で個別相談が必要な方にも参加を勧めていきたい。			

24	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 4	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
骨量測定相談会		骨量測定実施後、食事相談を実施。		年14回	参加者100%へ食教育及び情報提供を実施
H28	取組結果・実績	年15回の骨量測定相談会の中で、食事相談を422人に実施した。参加者全員（100%）に食事バランスに関するリーフレットを配布して、食に関する情報提供を行った。			
	報告事項	希望者ではなく、骨量の結果説明も兼ねて食事相談を実施しているため、本来必要な方へ食事相談が行き届いていなかったりと実施方法に課題がある。			
	事業評価	A	ABCの理由	計画どおり実施した。相談内容により、市の教室を紹介するなどの対応をした。	
H29事業計画・方針		全体へ向けたリーフレットを見直し、食生活の問題点を自分で気づけるような情報発信をしていく。			

25	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 3 4 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
「簡単！料理レシピ集」の配布・普及		市の各課栄養士（学校教育課・保育課・介護高齢福祉課・健康管理課）で作成したレシピ集。市の窓口や地区公民館、教室などで配布。		随時
H28	取組結果・実績	窓口で配布。食育ホームページにも紹介している。		
	報告事項	継続して配布中		
	事業評価	A	ABCの理由	計画どおり実施した。ヘルスマイト地区活動などで活用している。
H29事業計画・方針		年間の配布部数などを把握していないため、1年間の配布部数について把握していく。		

26	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 2 3 4 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
市民の食生活について普及・啓発		伊勢原市のホームページにて「食育のページ」を作成および更新。各団体やボランティア等へ望ましい食生活について普及・啓発。		随時
H28	取組結果・実績	<ul style="list-style-type: none"> ホームページにて健康ポータルサイトの中の「食育のページ」を月1回更新した。また、SNSを活用し、Facebookでも情報を同様に月1回あげた。 食育を担うボランティア（伊勢原市ヘルスマイト）への育成講座を随時実施した。 市食堂の食育情報POPを季節ごとに年3回更新した。 		
	報告事項	職員への食育の一環として、職員課と共同で庁内メールで食育の日（毎月19日）に情報発信を行った。同様にホームページ上で市民についても情報発信した。さらにホームページだけでなく、Facebook上でも情報発信した。		
	事業評価	A	ABCの理由	SNSを活用し、情報発信の手段を拡大できた。
H29事業計画・方針		<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、Facebookだけでなく、Twitterでも情報発信していく。 市民や食育を担うボランティアの育成を継続していく 		

27	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 2 3 4 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
いせはら食育セミナー		テーマにあわせた栄養士の講話と調理実習。		新規
H28	取組結果・実績	年9回実施し、116人が参加した。		
	報告事項	中央公民館だけでなく、地区公民館等を含め、全5箇所でも実施し市内に広く食育について普及した。		
	事業評価	A	ABCの理由	昨年度（100名）より参加者が増え、目標を達成できている。
H29事業計画・方針		地産地消をテーマに実施する回の季節を変えて実施することにした。市の健康意識調査からみられた課題（肥満と咀嚼、高血圧予防等）をテーマに組み入れて開催する。		

55	担当課等実施主体	健康づくり課		食育目標 1 2 3 4 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
ファミリー朝ごはんコンテスト		朝食喫食率アップ、楽しい食体験の積み重ねを達成し、市民の健康増進を図るための、小学校5・6年生と保護者を対象とした、朝食料理コンテスト。		新規
				29年度目標
				30組の応募
H28	取組結果・実績	23組の応募があった。 一次審査（書類審査）、2次審査（実技審査）を行い、4組の受賞者が決定。		
	報告事項	5～6年生の夏休みの宿題として実施することができた。 受賞作品をレシビ集にまとめ、全校に配布するなど普及啓発できた。		
	事業評価	A	ABCの理由	前年度より倍以上の応募があった。（平成27年度は10組）
H29事業計画・方針		<ul style="list-style-type: none"> 小学生部門での受賞メニューについて、可能な作品は、学校給食のメニューにするよう調整し、さらなるコンテストの普及をはかっていく。 コンテストの部門を中学生及び高校生にまで拡大し、若い世代の間断ない食育を目指す。（名称は「食育料理コンテスト」に変更） また、中高校生は家庭科の夏休みの課題として位置づけ、参加率を増やし、思春期世代の食育のさらなる普及をめざしていく。 		

28	担当課等実施主体	保険年金課		食育目標 1 4
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
特定保健指導		40歳～74歳で伊勢原市国民健康保険加入の人を対象に健診を実施後、必要な人に保健指導（食事相談など）を実施。		随時
				継続
H28	取組結果・実績	特定健康診査の結果、特定保健指導の対象となった方のうち、申込みをされた77名に特定保健指導を実施した。		
	報告事項	保健指導では生活習慣を振り返り、一人ひとりに合った目標を一緒に考え、食事や運動のポイントのアドバイスを利用者各々に6ヶ月間実施した。 平成28年度は未利用者対策として、新たに健康機器を使った測定会付きの特定保健指導を3回開催し、32名の利用があった。		
	事業評価	A	ABCの理由	未利用者対策として「通知による勧奨」や「電話勧奨」、「健康機器を使った測定会付きの保健指導」を実施した結果、未利用者の内51名（H29年3月末現在）を特定保健指導の利用に繋げることができた。
H29事業計画・方針		平成28年度と同様に平成29年4月～平成30年3月まで特定保健指導を実施。 未利用者対策として「通知による勧奨」や「電話勧奨」、「健康機器を使った測定会付きの保健指導」を実施する。		

29	担当課等実施主体	介護高齢課		食育目標 1 2 3
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
29年度目標				
（新）生き生き健康教室 （旧・おいしく食べよう 栄養教室）		（新）生活機能改善のための栄養改善と運動・口腔機能向上をめざした教室 （旧・低栄養のおそれのある高齢者の低栄養改善が目的の教室。 調理実習、栄養講話、運動、口腔ケア等の内容。）		1コース 12回
				（新）実参加者数の増 （旧）参加者の体重 維持・増加者の割合の増
H28	取組結果・実績	介護保険制度改正により通所型二次予防事業が通所型サービスCに移行したため、低栄養者向け単独の通所型栄養改善事業は廃止となり、平成28年度より「生き生き健康教室」として、栄養・運動・口腔の複合型事業に組み込まれた。管理栄養士は年6回の講義を2コース実施し、食事記録の提出等は毎回実施した。参加者は2コース合わせ実人数20名、栄養の回の参加者は延べ101名であった。		
	報告事項	昨年度までの栄養教室（実人数28名、延べ113名）と比較し、延べ参加者は維持できた。肥満など低栄養以外の参加者にも相談対応ができた。		
	事業評価	A	ABCの理由	延参加者数は維持でき、様々な対象者に対応できた。
H29事業計画・方針		本事業は各地域包括支援センターごとの開催となり、年間3コースに増える。		

30	担当課等実施主体	介護高齢課		食育目標 1 2 3
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
29年度目標				
栄養教室同窓会		継続した低栄養予防・改善を目的に実施している、「おいしく食べよう栄養教室」修了者のOB会。調理実習を中心に実施。		年4回
				年間参加者100名
H28	取組結果・実績	「いきいき健康教室同窓会」として、栄養教室同窓会を他の教室のフォローアップ事業と合同で開催。栄養士、歯科衛生士、作業療法士等がそれぞれ講師となって、複合型の講座として実施した。栄養士は年6回を2コース実施し（うち1回は雪のため中止）適正体重維持のための調理実習や会食、栄養士講義等を行った。栄養の回の参加者は延べ127名であった。		
	報告事項	複合型の教室の中での合同開催としたため、昨年度（延べ80名）と比較し、参加者数の増加につながった。また、低栄養以外の方への関わりも持てた。		
	事業評価	A	ABCの理由	昨年度から開催人数が増加し、目標人数を達成できた。
H29事業計画・方針		「いきいき健康教室同窓会」として、同様に実施予定。 修了後は今後、地域の集いの場につなげていけるよう、検討が必要。		

31	担当課等実施主体	介護高齢課		食育目標 1 3	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
訪問栄養相談		低栄養のおそれのある高齢者の低栄養改善を目的に、管理栄養士が訪問栄養相談を実施。		随時	年間対象者（80～100名）の8割程度
H28	取組結果・実績	低栄養のおそれのある高齢者に対し訪問を23回（18名）実施した。			
	報告事項	低栄養該当者を実施済みの基本チェックリスト（独居登録者への送付や、包括支援センターによる実施者等）から抽出し、管理栄養士が訪問した。本人の希望や必要のある者には訪問を継続した（4名）。これにより昨年度より件数が増えた。			
	事業評価	B	ABCの理由	訪問数が昨年度（14回、14名）から増えたが、制度改正により高齢者全体に対して低栄養の把握を行っていないため、年間対象者数自体の把握はできない。	
H29事業計画・方針		管理栄養士が訪問を継続できた方は、体重の維持・増加につながった。今後、様々な機会や機関で基本チェックリスト等を実施し、低栄養該当者には訪問型サービスCはだけでなく、それ以外の対象の方へも、管理栄養士が訪問できるような体制を整えていきたい。			

32	担当課等実施主体	介護高齢課		食育目標 1 2 3	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
介護予防料理講習会		高齢者向け料理講習会。伊勢原市ヘルスマイトが実施。		各公民館 1回以上	参加者200名
H28	取組結果・実績	年12回実施し、参加者は162名であった。各公民館ごとに実施し、内容は、ヘルスマイトによる簡単なメニューの調理実習や講話。			
	報告事項	広報による募集に加え、ヘルスマイトによる周知を引き続き行った。			
	事業評価	A	ABCの理由	昨年度（167名）と同等の参加者であった	
H29事業計画・方針		年18回実施し、そのうち4回は男性の初心者向け料理講習会を4回シリーズで行う予定。また、市の各介護予防事業等を修了したかたなどに参加を勧めるなど、高齢者の地域交流の場の一つとしていきたい。			

33	担当課等実施主体	介護高齢課		食育目標 123
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
出張！簡単クッキング		依頼に応じ、老人クラブやミニサロン等の地域に出向き、調理と試食会の実施。		随時
取組結果・実績		依頼に応じ2会場で実施した。会場に炊飯器や調理器具を持ち込み、簡単メニューの調理デモンストレーションを行い、参加者に試食してもらった。		
H28	報告事項	依頼のあったミニサロン2箇所のみでの実施であった。材料の準備などが負担で、実施が難しく講義だけの実施の依頼が多かった。		
	事業評価	B	ABCの理由	昨年度の2箇所から増減なし。
H29事業計画・方針		・今まで実施したことのない会場などでも実施できるように、ミニサロン等に個別にPRをしていく。		

34	担当課等実施主体	介護高齢課		食育目標 12345
取組・事業名		事業内容とその目的		現状
高齢者の食生活について普及・啓発		ミニサロンや老人クラブ、地域包括支援センター、ボランティア等へ高齢期の望ましい食生活について普及・啓発。		随時
取組結果・実績		ミニサロン等55回1247名、老人会や公民館高齢者学級・地域包括支援センター依頼事業等も実施できた。		
H28	報告事項	老人クラブについては、老人クラブ連合会の会合で「高齢者向けの食育出前講座」をPRし、依頼を受け実施につながった。		
	事業評価	A	ABCの理由	前年度に比べ、回数は減ったが人数はほぼ同数のため（昨年度59回1245名）
H29事業計画・方針		29年度は、「よく噛むことの大切さ」を主なテーマに、ミニサロン等で引き続き普及していく。高齢者向けの食育出前講座として、会場に出向けることも積極的にPRしていく。		

35	担当課等実施主体	介護高齢課		食育目標	23
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
介護予防サポーター養成・育成講座		各地域での介護予防を目的としたサポーターの養成講座。管理栄養士の回の実施内容は、高齢者向けボランティア活動における、食に関する注意点や実施内容等。基礎コースと専門コースを隔年で交互に実施。専門コースの1つに、介護予防・栄養サポーター養成講座がある。		2年に1コースの実施	基礎コース参加者30名
H28	取組結果・実績	介護予防サポーター養成講座基礎コースは2回延べ20名の参加であった。高齢者の食について講話を実施した。			
	報告事項	また、H27年度より栄養サポーター養成講座は健康づくり課の「伊勢原市ヘルスマイト養成講座」を紹介する形での実施となっている。ヘルスマイト養成講座の中で、高齢者の食育について話をしていく。			
	事業評価	B	ABCの理由	参加者がH26年開催時と比較し、減少した。	
H29事業計画・方針		基礎コースは2年に一度の開催のため、29年度は開催予定なし。過去の修了者にヘルスマイト養成講座の案内をしていく。			

36	担当課等実施主体	介護高齢課		食育目標	1
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
配食サービス希望者への管理栄養士訪問		希望者が申請後、管理栄養士が訪問し栄養アセスメントを実施する。		随時	40名
H28	取組結果・実績	15名に管理栄養士が訪問し、配食サービス導入やモニタリングを行った。			
	報告事項	対象者の現状に応じ、担当ケアマネージャーや包括支援センターと連携を取りながら栄養アセスメントや食事相談等を実施した。民間による配食サービスの普及等に伴い、希望・利用数が減ってきている。			
	事業評価	B	ABCの理由	昨年度（20名）に比べ、訪問・栄養アセスメント実施が減った。	
H29事業計画・方針		継続実施。まずは関係者や家族等から相談があった場合に、管理栄養士が訪問し、低栄養や食事づくりが難しい高齢者へ必要なサービスを紹介・導入したり、食事のアドバイスをしていく。			

37	担当課等実施主体	農業振興課		食育目標	3 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
農業体験事業 (教育ファーム)		米作り(谷戸田オーナー制度)や野菜づくりなど栽培から収穫までの農業体験。		実施	20組
H28	取組結果・実績	年13回開催し、21組が参加した。			
	報告事項	米づくりの農業体験を通じて、谷戸田の原風景を保全するとともに自然と触れ合うことで、農業の持つ多面的機能を理解させることができた。			
	事業評価	A	ABCの理由	目標組数に達し、事業目標を達成している。農業体験を通して参加者が食材(米)に対する関心が高まり、食材への興味を示した。	
H29事業計画・方針		28年度と同様に実施する。			

38	担当課等実施主体	農業振興課		食育目標	5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
農業に関するイベント		市民朝市(毎月第1日曜日(10月休み、11月夕市、12月:第1・第3日曜日、1月:第2日曜日)) 野菜・果物・卵・花・落花生など「新鮮・安全・安心」な生産物を販売。		実施	1回で行う出店者数を10店舗以上
H28	取組結果・実績	年12回開催し、生産者と消費者の交流を図ることができた。			
	報告事項	基本的に例年どおりでの開催内容であった。 新たな試みとして、11月の朝市は、午後2時から夕市として会場を市街地のメイン通り沿いで開催し、多くの来客があった。			
	事業評価	A	ABCの理由	市民朝市では、「新鮮・安全・安心」な生産物が販売されている。朝市で消費者と生産者との交流が行われ、食材がどのように生産され、安心・安全であるかを学ぶ機会であり、食材への理解も深まった。	
H29事業計画・方針		28年度と同様に開催予定。開催は市役所の駐車場にて実施予定である。			

39	担当課等実施主体	農業振興課		食育目標	5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
農業に関するイベント		畜産まつり。 動物とのふれあいや農畜産物の販売を通じ、農畜産業への理解と関心を深めるまつり。		実施	来場者 30,000人
H28	取組結果・実績	11月19日・20日の2日間で第36回伊勢原市畜産まつりを開催（JAいせはら農業まつりと同時開催）し、約2万5千人の来場があった。			
	報告事項	畜産動物とのふれあいや農畜産物の販売を通じ、農畜産業への理解と関心を深めることができました。			
	事業評価	A	ABCの理由	1日目が雨天であったため来場者が少なかったが2日目は、昨年を超える来場者があった。多くの方に畜産に対する興味を持っていただき、食の大切さを理解してもらった。	
H29事業計画・方針		28年度と同様に開催予定。			

40	担当課等実施主体	農業振興課		食育目標	5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
農業に関するイベント		みかんの木オーナー制度。 消費者がみかんを収穫できる権利を買い、収穫を楽しむことができる制度。（その年の生育状況によって、新規の募集ができない年も有る）		実施	600本
H28	取組結果・実績	2つの観光農業推進組合により、みかんの木オーナー制度が実施された。			
	報告事項	原則として、リピーターのオーナーを優先とした。			
	事業評価	B	ABCの理由	今年度もみかんの木オーナーの新規募集は出来なかった。しかし、子供から大人までみかんを通して食材に対する興味を持っていただいたと感じており、次世代へ食の大切さをつなげることができた。	
H29事業計画・方針		27年度に続き28年度も新規募集ができなかったため、29年度は新規のオーナー募集が実施できるよう、観光農業推進組合と調整する。			

41	担当課等実施主体	農業振興課		食育目標	3 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
市民農園		野菜や花の栽培を通じて自然と触れ合うとともに、自らの健康や家族とのふれあい、農業に対する理解を深めることを目的に、遊休農地等を利用した「八幡谷戸ふれあいガーデン（市民農園）」（高部屋地区西富岡地区）が指定管理者により運営されている。 ●「八幡谷戸ふれあいガーデン」218区画、NPO法人ファームパーク湘南が管理・運営する市民農園「ファームパーク上平間」52区画、「ファームパーク八幡台」54区画 ※「八幡谷戸ふれあいガーデン」の指定管理者は、平成28年4月より変更。		実施	八幡谷戸ふれあいガーデン利用率46%以上
H28	取組結果・実績	市民農園利用状況（3月末時点） 八幡谷戸ふれあいガーデン：69区画／218区画（利用率31.9%） ※10月は利用率68% ファームパーク上平間：52区画／52区画（利用率100%） ファームパーク八幡台：54区画／54区画（利用率100%）			
	報告事項	アグリパーク伊勢原八幡谷戸ふれあいガーデンは指定管理者が、ファームパーク上平間とファームパーク八幡台はNPO法人が、それぞれ適正に運営管理を行った。			
	事業評価	A	ABCの理由	八幡谷戸ふれあいガーデンについては、指定管理者が変わり、利用率の向上が図れたほか、収穫体験とバーベキューを組み合わせた取組も好評だった。両ファームパークについては利用率も高く、利用者自身による食材育成という食育の目標は達成できたと考える。	
H29事業計画・方針		利用率の向上及び地域住民の理解を得られるような取組について協議、検討を行う。			

42	担当課等実施主体	農業振興課		食育目標	5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
環境保全型農業の推進		低農薬で化学合成肥料をなるべく使用しない環境にやさしい農業を推進し、安全かつ安心な農畜産物を消費者に提供するとともに都市型農業の振興を図る。		実施	栽培面積450a
H28	取組結果・実績	環境にやさしい農業への取り組みが行われた。			
	報告事項	有機農業者による畑作を中心とした栽培が行われた。			
	事業評価	A	ABCの理由	消費者に対し、農業者が取り組む環境保全型農業についてPRを図り、食材の大切さを理解してもらえた。食育の観点から目標を達成していると考えられる。	
H29事業計画・方針		地産地消を基本とする都市型農業の総合的推進を図る上で必要な事業として、引き続き実施する。			

43	担当課等実施主体	社会教育課		食育目標	3
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
公民館における料理教室		「幼児家庭教育学級」「高齢者学級」、夏休みにおける親子を対象とした講座など。幅広い年代に応じた食事の作り方・与え方や、食生活のあり方等を学ぶ。		各公民館 年1回以上	各公民館年1回以上
H28	取組結果・実績	調理施設のない大山公民館を除くすべての公民館において、料理教室等を1回以上開催し、食の大切さを学んだ。 平成28年度実績：30講座（31回） 延べ参加者数 452名			
	報告事項	幼児家庭教育学級や高齢者学級においては、対象者の年代に合った食事や食生活のあり方等について学び、自らの食生活を見直す機会となるように努めた。 また、公民館によっては料理実習室がなく、調理施設・設備に制約がある中、講座の実施や内容の充実にも努めた。			
	事業評価	A	ABCの理由	市内各公民館（大山公民館を除く）において、様々な年代層に対する料理教室を実施し、食生活や食文化など食の大切さを学ぶことができた。	
H29事業計画・方針		平成28年度と同様に実施予定。 食に対する関心は年々高まりを見せていることから、講座・教室の内容も時代に即した内容を検討するとともに、事業内容について広く住民へ周知する。			

44	担当課等実施主体	社会教育課 人権・広聴相談課		食育目標	1 2 3
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
父子料理教室		男性を対象にした日常生活支援及び子育てへの関わりの支援として、父子料理教室を社会教育課の夏休み事業の位置づけで実施する。		年1回	年1回
H28	取組結果・実績	[社会教育課] 人権・男女共同参画推進担当との共催により父子を対象とした料理教室を実施し、日ごろ家事・育児参加の少ない男性が家事・育児へのかかわりを持てるように支援した。 H28年度実績 1講座（1回） 22人（親子11組）参加 [人権・広聴相談課] 家庭内での男女共同参画意識の向上と実践を図る講座として実施した。 日時：平成28年8月7日（日） 参加者数：11組22名			
	報告事項	[社会教育課] 人権・男女共同参画推進担当との連携により、効率的な講座の運営に努めた。 夏休み事業として実施し、多くの参加を得ることができた。 また、父と子の交流を図る場としても有効であった。 [人権・広聴相談課] 社会教育課と共催で実施することで、効率的に事業実施することができた。 また、夏休みに実施することで、父と子のコミュニケーションを深める場としても有効であった			
	事業評価	A	ABCの理由	[社会教育課] 計画どおり実施し、男性への家事・育児参加を推進するとともに、父と子の交流を図ることができた。 [人権・広聴相談課] 計画どおり、年1回開催し、男性の子育てや家事への参加に対する意識を高めることができた。	
H29事業計画・方針		[社会教育課] 平成28年度と同様に実施予定。 人権・男女共同参画推進担当と連携し、参加者の増員に努める。 [人権・広聴相談課] 平成29年度も社会教育課と共催し、事業を開催する			

45	担当課等実施主体	子ども育成課・学校教育課・環境対策課・市民協働課		食育目標	5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
食品の放射性物質検査		子どもの食の安全を確認し、食品の放射能汚染に対する市民の不安を払拭する目的で、給食食材や市民が市内で購入した食品の放射性物質検査を実施する。		学校・保育所給食、市民持込み食品を各週1回実施（環境対策課は月に4検体実施）	[環境対策課]月に4検体実施していく（8月のみ2検体） [市民協働課]市民の持込み件数による
H28	取組結果・実績	[子ども育成課回答] 給食で 사용되는食材を月4品目検査した。 [学校教育課回答] 給食実施期間中、月2回2品目～6品の検査を実施、野菜等全51品目を検査した。			
	報告事項	[子ども育成課回答] 基準値を超えるものはなかった。 [学校教育課回答] いずれの食材についても、測定限界値未満であることが確認された。 [環境対策課回答] 市内の公立小学校及び公立保育所の給食で使用する食品の放射性物質濃度スクリーニング検査を実施し、子どもの食の安全を最優先に確認するとともに、市民から持ち込まれる食品の検査を実施することにより、市民の不安を払拭させることを目的に実施。 （公立保育所の給食食材 46検体、市民から持ち込まれた食品 0検体） [市民協働課] 市民からの持込み件数 0件			
	事業評価	A	ABCの理由	[子ども育成課] 検査の結果基準値を超えるものは検出されなかった。 安全な給食を提供できた。 [学校教育課回答]検査を実施し、不安を払拭することができた。	
H29事業計画・方針		[子ども育成課] 基準値を超えたものがなかったことから、29年度は学校教育課とあわせて月4品目で検査を実施する。 [市民協働課] 食品の放射能汚染に対する市民の不安を払拭するため、引き続き食品の受け入れを実施していく。			

46	担当課等実施主体	JAいせはら		食育目標	345
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
農業に関するイベント		園芸まつり(園芸シーズン到来を告げるイベント)、農業まつり(実りの秋、収穫の秋を楽しむイベント)、GCふれあいまつり(JA各支所のGC組合員が地域の人々とふれあうイベント) 等。		年1回ずつ開催	現状維持
H28	取組結果・実績	4月16日・17日に園芸まつりを開催。11月19日・20日に農業まつりを開催。10月から11月にかけてGCふれあいまつりを各支所で開催した。			
	報告事項	園芸まつりにおいては、お花のプレゼントおよび野菜苗の無料配布を行った。農業まつりにおいては、タウン紙を活用してPRを行うと共にぬりえや書道コンクールを開催し、集客をはかった。			
	事業評価	A	ABCの理由	計画通り実施できた。	
H29事業計画・方針		28年度同様に開催予定。			

47	担当課等実施主体	JAいせはら		食育目標	3 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
JAいせはら ふれあい 農業塾（教育ファーム）		農作業の技術習得、農業理解につなげることを目的に市内在 住在勤の方を募集し、1年間の講義や実習の講座。		月1回	現状維持
H28	取組結果・実績	28年度は14人が受講し13人が修了した。3月から翌年1月まで毎月1回開催。その他必要に 応じて圃場の手入れなど行った。			
	報告事項	新規受講者で実施した。			
	事業評価	A	ABCの理由	計画通り実施できた。	
H29事業計画・方針		28年度と同様に開催予定。			

48	担当課等実施主体	JAいせはら		食育目標	3 4 5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
JAいせはら女性部による料理講習会		子育て中の母親や親子を対象とした料理教室。講師は女性部 員。		随時	現状維持
H28	取組結果・実績	7月22日に開催し8組、19人の親子が参加しました。			
	報告事項	28年度で5回目の実施で、料理で使った食材に対して親子で楽しめる食農教育をクイズ形式で行っ			
	事業評価	A	ABCの理由	計画通り実施できた。	
H29事業計画・方針		28年度と同様に開催予定。JAグループが食育教育の雑誌として推奨している「ちゃぐりん」を 活用した料理と食農教育を実施する。			

49	担当課等実施主体	伊勢原市ヘルスマイト		食育目標 1 2 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
伊勢原市ヘルスマイトによる料理講習会		市内6地区公民館を拠点に全てのライフステージを対象に料理講習会を実施。 ジュニアクッキング、男の料理教室、生活習慣病予防料理教室、介護予防料理教室、そばづくり、おもてなし料理など。		随時生活習慣病予防料理教室は各地区5回ずつ	市委託事業12回・市交付金事業33回・その他委託事業や自主事業の継続
H28	取組結果・実績	市委託事業12回・市交付金事業33回、協力事業27回、自主事業25回、(財)日本食生活協会委託事業5回、神奈川県委託事業2回			
	報告事項	料理講習会をより良いものにするため、定例会、学習会を実施し、会員のスキルアップを図った。			
	事業評価	A	ABCの理由	計画どおり実施した。	
H29事業計画・方針		料理講習会により多くの方に参加してもらえるよう呼びかける。 イベント等に参加して住民の方に食改活動を理解して頂き、会員の増加に努める。			

50	担当課等実施主体	神奈川県環境農政局		食育目標 3 4 5	
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
ふるさとの生活技術指導士		農家・農村地域に受け継がれてきた生活技術を伝承している人を「ふるさとの生活技術指導士」として認定。都市農業の理解や振興を旨とし、郷土に伝わる生活文化の継承活動を推進。		認定者数 神奈川県 280人 伊勢原市 内 8人	事業推進
H28	取組結果・実績	新たに3名(内伊勢原市0名)の方を認定し、累計321名(内伊勢原市16名)となった。			
	報告事項	新規認定に加え、ふるさとの生活技術指導士の方を対象とした交流会を開催した。 43名のふるさとの生活技術指導士に参加いただき、取組発表やパネルディスカッションを通して、今後の活動やふるさとの生活技術指導士としての役割などについて活発な意見交換が行われた。			
	事業評価	A	ABCの理由	計画どおり実施した。	
H29事業計画・方針		H28年度と同様に実施			

51	担当課等実施主体	平塚保健福祉事務所秦野センター・健康づくり課		食育目標	5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
食の安全安心に関する情報提供		神奈川県、秦野保健福祉事務所及び市のホームページ等により食の安全安心に関する情報提供の充実。食の安全安心に関する情報誌、資料等の積極的な提供。		随時	随時 (数値化困難)
H28	取組結果・実績	<p>[平塚保健福祉事務所秦野センター回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> 神奈川県ホームページに「かながわの食の安全・安心」のページを掲載（秦野センターからはリンク） かながわの食品衛生（パンフレット） 100部配布 食中毒予防街頭キャンペーンにて（H28.8.3 伊勢原駅南口周辺）パンフレット 1,000部配布 食中毒警報発令時 食中毒予防啓発チラシ 250部配布 大学・高校の学園祭における食品衛生講習会の開催 3回 87名 <p>[健康づくり課回答]</p> <p>各種健康づくり教室で、講話やリーフレット等で伝えた。また、庁内で情報の共有を行った。</p>			
	報告事項	<p>[平塚保健福祉事務所秦野センター回答]</p> <p>学園祭における食品衛生講習会は、向上高校、自修館中等教育学校、伊志田高校で実施</p> <p>[健康づくり課回答]</p> <p>保健福祉事務所と連携を取りながら、実施した。</p>			
	事業評価	A	ABCの理由	<p>[平塚保健福祉事務所秦野センター回答]</p> <p>計画通りに実施した。</p> <p>[健康づくり課回答]</p> <p>各種健康づくり教室等で伝えた。特に調理実習を伴う教室では、多くの参加者がいるため、参加者が衛生的に実習できるよう、知識の普及を図った。</p>	
H29事業計画・方針		・28年度と同様に実施予定			

52	担当課等実施主体	平塚保健福祉事務所秦野センター・健康づくり課		食育目標	5
取組・事業名		事業内容とその目的		現状	29年度目標
栄養表示等適正化推進事業		健康増進法に基づき、栄養表示基準制度、特別用途食品、食品の健康保持増進効果等に関する虚偽・誇大表示等について、普及啓発、活用促進、適正化指導を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 栄養表示状況調査 食品製造・販売等関連業者に対する相談・指導及び消費者相談 		年1回 随時	栄養表示の義務化に向け、現在、消費者庁では環境整備について検討中
H28	取組結果・実績	<p>[平塚保健福祉事務所秦野センター回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> 食品製造・販売等関連業者に対する事前相談 8件延べ9回 消費者からの相談 1件1回 事業者向け講習会 1回58人 消費者向け普及啓発 6回370人 <p>[健康づくり課回答]</p> <p>各種健康づくり教室で、講話やリーフレット等で伝えた。また、庁内で情報の共有を行った。</p>			
	報告事項	<p>[平塚保健福祉事務所秦野センター回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年4月1日から食品表示法が施行されたことに伴い、原則として一般消費者向け加工食品及び添加物について、栄養成分表示が義務付けられた。 新しい表示方法について、事業者からの相談に対応すると共に、住民が栄養成分表示を健康づくりに役立てることができるように、表示の正しい見方とその活用法について普及啓発を実施した。 <p>[健康づくり課回答]</p> <p>保健福祉事務所と連携を取りながら、実施した。</p>			
	事業評価	A	ABCの理由	<p>[平塚保健福祉事務所秦野センター回答]</p> <p>計画通りに実施した。</p> <p>[健康づくり課回答]</p> <p>各種健康づくり教室等で伝えた。国の動向に留意し、適宜対応した。</p>	
H29事業計画・方針		<p>[平塚保健福祉事務所秦野センター回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、事業者からの相談に応じると共に、住民や事業者に対しても栄養成分表示について普及啓発し、活用を推進する。 <p>[健康づくり課回答]</p> <p>前年度と同様に実施予定。</p>			

53	担当課等実施主体	伊勢原協同病院		食育目標	1	2	3	5
取組・事業名		事業内容とその目的			現状	29年度目標		
地場産フレッシュ野菜を使ったお料理教室		季節の地場野菜を使用した料理教室。食事と生活習慣病、簡単ストレッチを管理栄養士が指導。			年3回	年3回		
H28	取組結果・実績	年4回実施、計113名が参加。						
	報告事項	調理実習および、それぞれのテーマに合わせた生活習慣病予防についてのミニレクチャーを行った。4回の実施内容は、「初夏を愉しむ、野菜のパワーいっぱいメニュー」、「ケーキサレとテリーヌでランチ」、「体の中から温まる薬膳料理に挑戦」、「ヘルシー食材 豆腐料理をマスターする」を計画、実施した。						
	事業評価	A	ABCの理由	参加者は定員を上回る申し込みで盛況であった。予算、内容においても計画通り進捗した。				
H29事業計画・方針		同回数、テーマを変えて実施予定。						

54	担当課等実施主体	伊勢原協同病院		食育目標:	1	2	3	4
取組・事業名		事業内容とその目的			現状	29年度目標		
メンズビギナークッキングスクール		初心者向け男の料理教室。基本的な料理の仕方、食事と病気について管理栄養士が説明。			年3回	年3回		
H28	取組結果・実績	年3回実施、計33名が参加。						
	報告事項	調理実習および、それぞれのテーマに合わせた生活習慣病予防についてのミニレクチャーを行った。当院看護師も講師として参加。血圧、血糖測定を行い、測定値の高い参加者に受診を促した。3回の実施内容は「おいしく減塩、ヘルシーにそば」、「油を制して、カロリーダウン」、「魚料理に挑戦！」を計画、実施した。						
	事業評価	A	ABCの理由	参加者のアンケート調査から、取り上げてほしいテーマ、メニューを実施。看護師とのコラボにより、より病院を身近に感じたなどの意見が寄せられた。血圧の測定方法のミニレクチャーも好評であった。予算、内容においても計画通り進捗した。				
H29事業計画・方針		同回数、テーマを変えて実施予定。						